



東大とスポーツ関連ニュース

毎日規則正しく学校にやって来て、教室や図書室、自習室などで過去問に取り組んでいる姿を見ると、「どうかいい結果がこの生徒たちにおとずれますように…」と祈らずにはいられないわけだが、さすがに今週は早・慶の受験が始まっているせいか、3年生の姿もまばらだし、教室も人少なで静かである。

今日（13日）は東京大学の第一次選抜ライン（いわゆる足切りライン）が発表された。センター試験が易化したせいか、なかなか厳しい数字となっている。

文一	628点	(平均765.14)
文二	728点	(794.58)
文三	750点	(798.20)
理一	698点	(799.62)
理二	720点	(786.59)
理三	630点	(801.68)

ちなみに、予備校の予想はどうだったのかというと、

文一	駿台600	河合595
文二	駿台700	河合709
文三	駿台750	河合742
理一	駿台725	河合720
理二	駿台720	河合709
理三	駿台760	河合737

となっていて、低めの数字に賭けて出願した人の中には残念な結果になった人がいるかも知れない。また、自己採点が確実であればよいが、悪い方にブレていたりすると、ギリギリで受験票が届かないということもありえるだろう。受験票が届くか、「あなは受験できません」という手紙が届くか、今週はドキドキすることになりそうである。

*

そんなこんなであるが、スポーツ界で驚いたニュースが二つ飛び込んできた。

まず一つは、テニスの大坂なおみ選手が、バインコーチとの契約を解消したというニュース。世界ランク1位に登りつめるにあたって、バインコーチはチーム大坂の中心的存在だったはずで、絶好調の中での解消というのは、ちょっと信じがたいというのが誰でもが持つ感想ではないだろうか。報道によると理由も明かされていないということなので、余計不思議感が高まる感じである。朝日新聞には、「大坂が全米で初優勝する3カ月前、元世界4位の伊達公子さんが言っていた。

「(周囲を固めるコーチやトレーナーは)彼女自身が望んだというよりは、周りがこういうのが大事だと教えている段階」。自分に何が足りないかを自覚し、必要な人材を自ら選ぶことも、勝つために大切な要素に挙げていた。いま、大坂は世界女王として君臨する。背中を押したバイン氏の手腕は確かだが、一方、トップ選手をコーチとして教えた経験が無い。「流れに身を任せるのがモットー」という21歳。新しい旅の身支度を始めたのだろうか。」と報じている。

もう一つは、水泳の池江璃花子選手。水泳部の諸君の中には、同じプールで(同じレースで、ではないが…)泳いだ人もいない。そんな同世代が、病魔と闘わなければならなくなってしまったのは、本当に驚きだし、悲しい気持ちになる。ただ、彼女のツイッターには前向きな言葉もあった。外野としては、その前向きな言葉に期待して、完治と復活を心から祈りたい。FIGHT !!!